

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200045		
法人名	有限会社松丸商事		
事業所名	グループホームアリス		
所在地	千葉県千葉市花見川区天戸町688番地1		
自己評価作成日	令和3年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの能力に留意し、画一的なケアとならないように、個々人に合わせてケアを行うようにしている。 ・行事などを定期的に行い、生活にメリハリをつけて過ごせるようにしている。 ・状態の変化等があった際には、ケア内容を変更するなど、即対応できるよう努めている。 ・入居前の経済的背景、生活環境及び家族背景等によって受け入れ先がなく困っている方の受け入れを積極的にしている。また、そのような背景があったとしても落ち着いて穏やかに生活できるよう、医療福祉に限らずすべての社会資源を活用し、入居者・家族ともにより良い生活を送ることができるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は理念に基づいた支援を大切にしており、人権擁護を基本に据え、利用者のニーズに合わせた自立支援に取り組んでいる。職員には、認知症の専門職として自覚し、利用者と共に成長してほしいことを伝えている。現在、利用者一人ひとりのケアの手順書を策定中である。新型コロナウイルス感染症対策にも力を入れ、リビングのテーブルにアクリル板を設置するなど、感染させない感染しないことを職員及び利用者に徹底している。ホームのリビングは広くはないが、家庭的な雰囲気を感じられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時、管理者から職員に説明を行っている。また、施設内に掲示し、いつでも見ることができる状態をつくり、実践できるように努めている。	ホームの理念を明文化し、入職時に職員に説明している。管理者は、介護が初めての職員も経験がある職員も、認知症の専門職として自覚し、利用者と共に成長してほしいことを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で外出する際、積極的に挨拶を行っている。また、買い物に出かける際、職員だけで行くのではなく、入居者と共に出かけ交流を図っている。	自治会に加入しており、敬老会などの行事があれば参加している。コロナ禍であり外出は自粛しているが、これまでは近くのコンビニエンスストアへの買い物や、ホーム近くの神社に行くなどしていた。また、ホームは地域に認知されており、介護の相談で地域の人が訪れることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを通じて、認知症に関する理解を得られるように活動している。また、相談等があった際には、関係各所につなげるなどの協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ができていません。	運営推進会議が一度も開催できていない。	運営推進会議の意義を改めて理解し、利用者・家族や地域住民の代表者等をメンバーとして、定期的に開催することが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多いので、区の社会福祉課との連携は密にとっている。現在は、花見川区、中央区、美浜区との連絡調整が多い。	市の担当課とは必要に応じて連絡を取っている。現在は電話でのやり取りが多くなっている。また、地域包括支援センターと連携し、入居につなげた事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修等を行っており、理解と実践に努めている。日常業務の中でも、気付いた点等があれば話し合い等を行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、指針を整備するとともに委員会を設置し、3か月に1回話し合いをしている。職員研修も実施して虐待防止の意識付けを図っている。行動を制限する言葉遣いにも注意しており、別のことばに置き換えるなど配慮をしている。また、玄関は施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれがお互いの言動や行動に注意するように努めている。虐待に繋がる可能性のある行為が見られた場合には、管理者より注意喚起するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は積極的に活用している。制度内容等については、適宜研修等にて学ぶようにしている。現在は、入居時に成年後見制度を利用するかどうか、関係者にて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談を受けた時点から、質問や疑問等に関しては、管理者からしっかりと回答するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡時、管理者からしっかりと聞き取りを行うようにしている。	現在コロナ禍のため、家族等の面会は制限をしているが、来訪時には要望等を聞いている。電話で利用者の様子を聞いてくる家族もあり、そのときに意向なども聞くようにしている。把握した要望等は代表や管理者等が検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回程度、管理者との面談の機会を設けるようにしている。意見があった際には、管理者(ケアマネ)、法人役員、法人職員にて会議にかけ、適宜検討するようにしている。	半年に1回程度、職員と個別に面談する機会を設け、意見等を聞いている。日々の業務のなかでも話を聞いたり相談に乗ったりしている。また、サービスの質を向上させるため、職員の意向を把握し、資格取得の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や責任者と定期的話すことのできる環境や雰囲気を作ることができるよう努めている。また、資格取得等の希望がある場合には、シフト調整をしたり、資格取得に関する金銭的負担を軽減できるよう制度を策定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修等を行うほか、適宜ベテラン職員が新人職員に付いて指導するようにしている。入職時だけでなく、数か月経った時点でも確認するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあるので、積極的な交流等はおこなっていない。どちらかというと、個別の能力等の向上を目指して行動している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前は入居前に施設見学等を行っていたが、現状では実施していない。見学等ができない分、本人や関係者各方面からの聞き取り等を多く行い、ミスマッチを防ぐようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記情報収集時に、家族がいる場合は特にしっかりと聞き取りを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前提の話し合いではなく、ほかサービスを利用できないか、または相応しいサービスはないかどうかの視点を忘れないよう心掛けている。しかし、緊急的な事情等がある場合は、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべてのことを職員が行うのではなく、共に行えるようにしている。リネン交換や洗濯等、少しのことでも本人に協力してもらい、一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な際には管理者から家族に対して協力をお願いするようにしている。しかし、家族の負担にならないように気を付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前までの関係が途切れないように電話等を取り次ぐようにしている。また、現在面会等が自由に行えない状況なので、オンラインで面会できるように整えている。	現在はコロナ禍により難しいが、基本的には知人や親せきなどの訪問は歓迎している。墓参りなどは家族と出かけ、年賀状のやり取りも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順などにも配慮し、常に交流を持てるように努めている。感染症予防の観点から、リビングのテーブルにはアクリルボードが設置してあるが、ボードのせいで声が聞こえない等の場合には、職員が必要な支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には積極的に協力できるように努めている。状態が良くなり退居した入居者さんには、行事の連絡をしたりして、関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りの他、日常の会話の中から本人の意向や思いを把握できるように努めている。日々の小さな言動や行動等を見逃さないよう努めている。	利用者の思いや意向は日常会話の中で聞いている。特に入浴時など1対1のケアの中で聞くことが多い。把握した内容は「生活介護、記録チェックシート」に記録し、職員間で共有を図り、介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りの他、家族や関係各所からの聞き取りも併せて行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録シートを使用し、各職員が記入できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行うほか、直接ケアにあたっている職員からも適宜情報を聞き取り、より良い生活環境を整えられるよう努めている。	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえ、入居前の情報などを把握したうえで、職員の意見、記録などを参考にしてケアマネジャーが作成している。モニタリングは2か月に1回おこない、6か月ごとに利用者の状況を判断しながら、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所独自の書式を使用し、情報の共有を図っている。また、アセスメントや会議等の際にその記録を見返して、計画等に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人その人に合った支援が行えるように努めている。介護という枠だけにとらわれず、その人にとって一番適切な支援ができるように話し合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる資源を適切に活用できるように努めている。千葉市から発行されている便りなどにも目を通し、情報の収集に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や外来受診等、その人の希望に沿った医療を受けることができるように努めている。	毎日2回の検温と血圧測定、月2回の訪問診療で利用者の健康管理をおこなっている。入居後はホームの協力医が主治医になっており、24時間のオンコール体制ができています。専門医については従来からのかかりつけ医に診てもらい利用者もおり、通院介助は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の際、看護師、薬剤師もチームとして訪問してもらっているので助言をもらうようにしている。また、必要な際は訪問看護のサービスを利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、訪問診療の医師から情報提供を行ってもらっている。また、定期的に面会などに赴き、SWとの連絡を密にとり、早期に退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。救急や重症化の可能性のある際は、即関係各員との連絡をとり、入院等の対応をとるようにしている。	重度化した場合の対応を明文化しており、契約時に説明している。法人の方針として看取りはおこなっていない。口からの食べ物の摂取が困難になった場合は協力医に相談し、入院先の紹介をしてもらっている。重度化してもできる限りホームで暮らせるような支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修を活用し、技術や知識の向上に努めている。内部の研修の際、必要があれば専門知識を持つ講師を招き、講習を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練等を行うようにしている。また、災害時の対応等について、施設内に掲示物を掲示している。	台所からの出火や夜間を想定した避難訓練をおこなっており、訓練後は課題を抽出し、次回に繋がるよう話し合っている。また、冬季は石油ストーブを使用するため、職員に対し火災への注意喚起をしている。備蓄品として、水、米、アルミシート、発電機などを用意している。	様々な災害を想定した訓練の実施と災害時の職員の役割分担、利用者の支援方法などをマニュアルにしても良いと思われる。また、非常口周辺の整理整頓も期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの心身の状態や置かれている環境に配慮し、管理者やケアマネから職員に対して随時説明や指導を行っている。	管理者は利用者への言葉かけで、幼児言葉は使わないことや、徘徊、認知症なども言葉の意味を考えて使うように伝えている。また、利用者の呼称は「さん」付けにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が一方向的に物事を決めるのではなく、こちらからの提案という形を取っている。同じ事柄でも、問いかける言葉を変えるだけで意味合いが変わる等、細かく指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなスケジュールは決まっているが、その時の体調や気分によって柔軟に変更するなどの対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	シャンプーやボディソープなど、介護施設だからこれでいいなどの偏った考えは持たず、香りのよいものなどを選んだりしている。また、衣類等についても、本人の好きなものを身に付けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの能力に合わせて、常食、刻み、ペースト、ムース食を使い分けている。また、個人の好みや食べたいものに関して、適宜聞き取りを行っている。	食事は厨房専門の職員がおり、常食、粗い刻み、細かい刻み、ミキサー、ペーストなど、利用者の身体状況に応じた形態で提供している。行事に合わせた献立や利用者のリクエストに応えるなどして、楽しい食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が取りづらい方には、液体の栄養補助剤を使うなどして、摂取カロリーや水分量が低下しないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけやスポンジブラシを使用しての口腔ケアなど、その人に応じた支援を行っている。月に数回、訪問歯科医または歯科衛生士からの指導を受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄に関してのアセスメントを行い、使用する物品の選択から排泄の時間変更まで行い、柔軟に対応している。	尿意、便意のある利用者は排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。定時のトイレ誘導でおむつからリハビリパンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬に頼るのではなく、食物繊維の多い食べ物やヨーグルトなどを活用し、また軽度の運動なども行い、便秘のない生活を送ることができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな曜日は決まっているが、入浴する順番や入浴方法等、各入居者の希望を聞き、希望に沿った入浴ができるように支援している。また、季節に合わせて時期に合う入浴剤を使用したりしている。	冬季は週1回、夏季は週2回の入浴支援をおこなっている。時間帯や順番などは利用者の希望に沿って支援している。また、シャンプーは香りのよいものを使用したり、入浴剤は常時入れるなど、入浴が楽しいものになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分によって、休憩時間が長くなるように支援したり、心地よい休息が取れるよう、光や音、におい等に気をつけて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を個別にまとめ、効能等がすぐわかるようにしている。また、服薬方法についても粉末にするなどして各個人に合わせた方法を選び支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何もなく退屈な一日にならないように、可能な方には役割をもってもらい、職員と協働していけるように支援している。気分転換に散歩などにいけるように体制を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等に関しては、近所のコンビニまでともに出かけている。普段いけないような場所に関しては、すぐに行くことはできないが、行事等で行くことができるように努めている。※コロナ禍により、散歩・通院以外は外出していません。	コロナ禍で思うような外出はできていないのが現状であるが、近隣の散歩には出ている。また、玄関先で日光浴をすることもあり、できる限り外気に触れる機会を作っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のコンビニへ買い物に出かけた際には、できるだけ自前で支払いを行ってもらっている。また、コンビニスタッフにも、何かあった場合には協力を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりができる方に関しては、取次等を行っている。成年後見人と協力し、携帯電話を持っている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などは、季節に応じて定期的に飾り付けを変えている。リビングではアロマを活用するなどして、心地よい空間で過ごすことができるよう支援している。温度計湿度計を数か所設置し、管理に努めている。	フロアと廊下は専門の職員が毎日掃除をしている。リビングにはテーブルが3卓置かれており、各テーブルの中央には手作りの飛沫防止パネルを置くなど、感染症対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたいときには居室を利用していただいている。入居者同士の関係性に注意し、座席等を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物を除き、持ち込みは規制していない。できる限り、今まで使用していた家具等を使用してもらっている。また、転倒等に注意し、動線を考えた配置にしている。	各居室には備え付けのクロゼット、エアコン、ベッドが設置されている。利用者はテレビやいす、タンスなど使い慣れたものを持ち込んでいる。結婚式の写真やぬいぐるみなどを持ってきている利用者もあり、安心できる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に関しては、大きく表示し分かりやすくしている。できる方には、居室内に洗濯物を入れるかごなどを置き、汚れ物を管理してもらったりしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと